

-(으)런만

～だろうに（実際はそうでない）

推量と残念さを同時に表す古文調です。日本語の「だろうに」に当たります。

■ つけ方

語幹	形	例
パッチムなし	-런만	가다 → 가런만
パッチムあり	-으런만	좋다 → 좋으런만
ㄹ 語幹	-런만	살다 → 살런만
名詞	(이)런만	학생이런만
縮約	-(으)런마는	より古風
後ろ	現實は違う	실제는 그렇지 않다

■ -건만 どう違うか

推量と残念さを込めます。시간이 있으면 좋으런만（時間があればいいだろうに）。

건만 との違いは時制です。-건만 がすでに起きたことへの逆接なのに対し、-(으)런만 は仮定と推量を含みます。「そうだったらこうなるだろうに、実際は違う」という嘆きです。

文末で終わることが多いのも特徴です。 좋으런만... と余韻を残す形で、詩や歌詞でよく見られます。

古文調です。日常会話では -(으)ㄹ 텐데 が自然な言い換えになります。

■ 例文

- 1 형편이 나으면 도울 수 있으런만 그러지 못해 미안하다.
暮らし向きが良ければ手伝えるだろうに、そうでなくて済みません。
- 2 비만 오지 않았더라면 좋았으런만.
雨さえ降らなければ良かっただろうに。
- 3 조금만 일찍 알았더라면 막을 수 있었으런만.
もう少し早く知っていれば、防げただろうに。
- 4 가까이 살면 자주 뵈 수 있으런만 거리가 너무 멀다.
近くに住んでいれば、しばしばお会いできるだろうに、距離が遠すぎます。
- 5 시간이 있으면 직접 만들런만 요즘은 여유가 없다.
時間があれば自分で作るだろうに、最近は余裕がありません。
- 6 봄이 오면 꽃도 피런만 아직은 겨울이다.
春が来れば花も咲くだろうに、まだ冬です。

■ 紛らわしいもの

-건만
すでに起きたことへの逆接です。런만 は仮定と推量を含みます。
했건만（したのに） / 좋으런만（よいだろうに）

-(으)ㄹ 텐데
「だろうに」で日常的です。런만 は古文調です。
좋을 텐데（日常） / 좋으런만（古文）

-았/었더라면
過去の反実仮想です。런만 は現在の嘆きが中心です。
갔더라면（していたら） / 가런만（行くだろうに）

■ まちがえやすい点

- X 학생런만
○ 학생이런만
名詞には (이)런만 をつけます。
- X 친구야, 좋으런만.
○ 친구야, 좋을 텐데.
日常会話では ㄹ 텐데 が自然です。
- X 좋으런만 좋았어요.
○ 좋으런만 실제로는 아니었다.
後ろには現実との差を置きます。